第3回オフ会の記録

燐洸蘭歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
第３回オフ会の記録

【Ｎコード】
Ｎ５８４４Ｃ

【作者名】
燐洸蘭歌

【あらすじ】
チャットメンバーの架空のオフ会。これで３回目になる。毎回毎回ハプニングが起きるが、今回はどんな事が起きるのか？

（前書き）

登場する地名、名前等は架空です。
同じ人、地名があっても関係はありません

「ねえ彼方、輝人て来るの？」

「いやこないよ。除外したから」

「除外って・・・」

「その代わり新たに参加者増えるよ」

「え、誰？」

前置きが長くなりましたが、今回のオフ会主催者の宮田真菜美です。
現在の参加者は、熊倉涼、間宮田桂子、大和彼方、そしてうち。
さっきの話していた順番は、桂ちゃん→彼方→うち→彼方→涼、の順番
今日は前から言っていた住んでる町探検ってことで今日はうちの住んでいる
川口市を探検する事になった。で、案内はうちだから主催者みたいな感じで決まった。

「あ、きたみたい」

彼方が指した所を見ると、中学生ぐらいの女の子が走ってくる。

「彼方ごめん。場所わからなくって」

「大丈夫だよ。紹介するね彼女は松田あいこ。あいこ、右から熊倉涼、間宮田桂子、宮田真菜美」

「松田あいこです。宜しく」

そう言ってあいちゃんはお辞儀をする。

「じゃあいこっか。目的地は映像学習センターＥＧＳ。向いながらいろんなところに案内するね」

そう言ってレンタル自転車に乗り走り出す。

１０分ほど走って３階建てぐらいの建物の前で停まる。

「ここは市内に７つある図書館のうち一番大きな図書館なんだ。うちもよく利用するんだ」

「大きいねぇ・・」

涼が見上げながら言う。

「じゃ、いこ」

そう言って再び走り出す。

そのあとも、市役所や卒業した小学校などを回る。

そろそろ１２時・・・あ、鐘がなった。

じゃああそこに行くか

「どこ行くの？」

桂ちゃんに聞かれ、

「そろそろ、お昼だから駅に行こうと思って」
「何で駅に行くの？さっきの駅何も無いのに」
あいちゃんに聞かれ、うちは
「川口市内にはね、３つの駅があってそのうち一つの駅ビルにレストランとかあるからさ」
「そこにいくのかあ」
彼方が頷きながら言う。
駅まではさっきいた公園から１５分ほどの所にある
「ここがその駅」
「凄い！！」
「大きい」
皆それぞれの感想を聞きつつ、
「じゃ中にいこ」
そう言って中に入り、５階まで上がる。お昼を食べるのは前から決めていたお店。
そこはパスタがおいしいという事で評判だった。

それぞれ注文したものが届き、食べ始める。

「おいしー！」

「ほんと」

「久々に食べたなー」

「お母さんのよりおいしいかも（笑）」

皆それぞれの反応だけど喜んでもらえてよかった。

食べ終わり少しして、

「じゃいこっか」

「次はどこに行くの？」

「うちが通ってる中学校と、最終目的地ＥＧＳ」

「楽しみー」

「特に中学校が」

「え・・・」

上から、うち、桂ちゃん、うち、あいちゃん、彼方、涼
とりあえず、代金を払い自転車に乗り中学校に向けて出発する
中学校までは5分ほど多分この時間だとあいつらに遭遇するなぁ・・・
・ま、いっか

「ここがうちの通ってる中学校。広いのはいいんだけど移動に時間が掛かって困るんだ」

そんな事を言ってると、

「あ、宮田先輩！！なんでいるんすか？」

はい、予想通り。後ろにいたのは眼鏡をかけ青い学校指定のジャージを着て、トロンボーンを持った吹奏楽部現部長小林京太郎

「何でって別にいいじゃんいたって。どうせ引退してるんだから」

「まあそうですけど・・・その人たちは？」

「チャットの友達。市内案内中。おまえ時間良いのか？」

「え、ああ！！やべ！じゃ俺行くんで。また9月に」

「うん。・・あんまり後押しばっかするんじゃねーぞ」

走っていく京太郎の後姿に言う。

「わかってます」

お、今日は素直じゃん

「だれ？あれ」

彼方が聞いてくる。

「あれ、吹部の部長で後輩の小林京太郎」

「ふーん」

「ねえ真菜美、そろそろ行こう」

「そうだね」

涼に言われて、再び自転車を走らせる

そして、

「ここがＥＧＳ」

「凄い！」

「町みたい」

最終目的地、ＥＧＳに着く。

「じゃあ中に行こう。中が楽しいんだぁ」

地下の駐輪場に自転車を止め、まず併設の科学館に行く。

科学館の中では科学教室をやっていて参加することにした
今日やったのはブーメラン作り。
色など皆の個性が出ていた。
そして今回のメイン。ＥＧＳの方へ行く。
「ここがＥＧＳで、川口市内の中学生はここで映像学習をやるんだ」
「へえ・・前見せてくれたのを作ったってここ？」
涼の言う前見せたのと言うのは映像学習で作ったＣＭの事だ
「そうここ・・！！」
「へ、真菜美どうしたの？」
遭遇したくない奴を見つけ彼方の陰に隠れる。
「ちょっと、できれば会いたくない奴がいたもんだから。」
「そっか～」
「じゃ、中に行こう」
中に入り、映像の仕組みや歴史などを見て回る。それに、合成の体験もする。
「面白かったぁ～」
「こんな所があったんだね」

「また着てみたいな」

「合成とか面白かった」

皆、喜んでくれてよかった。さてと、あとは帰るだけかぁ

「あれ、みやッちじゃんなんでいるの？」

声を掛けられ、体中に恐怖心的なものが走る。

「いこ。そろそろ5時になるし。俺は帰らないといけないからさ」

スルーして皆にいう。

「え・・うん」

皆は不審がっているけど仕方ない。こいつらの場合スルーが基本。

「一寸みやっち、無視しないでよ」

相変わらずしつこい。しゃあねえ

「なんだようるせえなあ」

皆の前では使わない、半分くらい戦闘体制に入った声で言う。

「だからなんでいるのってきいてんじゃん」

「別に良いだろいたって。友達と来ただけだけど」

「みやっちにうちら以外に友達いたんだ」

「だったらなんだよ。それ以前に、お前等なんか友達とは思ってねえんだよ。いこ皆」

そう言って皆と駐輪場に向う。

「良いのほっといて？」

「良いだよ別に。あいつらはスルーが基本だから」

「ふーん」

まあ色々問題はあったけどとりあえず皆家に着く。

次の日のチャット。

涼：昨日は楽しかったね

桂子：そうだね。ＥＧＳとか

あいこ：次はどうする？

真菜美：彼方の住んでいる所行ってみたいな

彼方：うーん・・じゃあそうしよっか。日付は後ほど

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5844c/

第3回オフ会の記録

2010年10月15日23時26分発行